キャット スティ ブンス（元人 歌手 イギリス）(パ ト1/2)

:

明:70年代の最も有名なミュ ジシャンの一人による真 への探求 パ ト1:ミュ ジシャンとしての人生

目: 事新改宗者ムスリムの逸 著名人

より: キャット スティ ブンス

日05 Dec 2009

集日 05 Dec 2009

私が言うべき全てのことはもう皆さんもご存じのように、神によって下された 言者の メッセ ジ 真 の宗教を　することです。人 として、私たちは被造物の としての意 と　を与えられました。全ての幻想を て、次の人生への　をするという　を　することは大 重要なことです。この 会を逃せば次の 会もないでしょう。 クルア ンの中では、人が死 清算の に召集された 、“神よ、どうぞ私たちを 世に送り返し、もう一度 会をお与え下さい”と言う 面があります。そして神は、“もしあなたを送り返したら、また同じことを り返すでしょう”と仰られているのです。

私の初期宗教教育

私はショ ビジネスの高 で　な流行世界の中で育ちました。私はキリスト教の家庭に生まれましたが、全ての子供は正しい天性のもとに生を受けるにも わらず、その　が彼らを彼らの宗教によって捻じ曲げてしまうのです。私はこの宗教、つまりキリスト教を与えられ、この道が正しいのだと思いました。神は存在すると教えられましたが、神との直接の接触はなかったので、イエスを通して接触しなければなりませんでした。イエスは　神への扉でした。キリスト教は多かれ少なかれ受け入れましたが、全てを受け入れることは出来ませんでした。

私はイエスの像をいくつか ました；それらはただの石で命はありませんでした。そして彼らが神は三位であると言う には私は混乱しましたが、そのことについて　することは出来ませんでした。私は　の信仰に して敬意の念を わなければならず、何となくではあってもそれを信じました。

人 歌手

次第に私はこの宗教から れていきました。私は音 を作るようになりました。私は有名なスタ になりたかったのです。映画やメディアで る全てが私をとりこにし、そしてお金を稼ぐという目 を自分の神だと思ってしまったのでしょう。。私にはかっこいい を持つ叔父がいました。“彼は成功者だ。お金を 山持っているんだから。”私の周りの人々は私を、このように思わせるようになりました;。この世界こそが彼らの神であると。

そして私はこの人生が自分のためのものであると めました。 山お金を稼ぎ、良い暮らしをするのだと。今や私の目 はスタ です。私は歌を作り始めましたが、心の奥底では人 性への思いがあり、もしお金持ちになったら まれない人を助けたいという望みがありました。（ちなみにクルア ンでは私たちは何か 束してそれが叶ったとしても、いざそれを手にすると 欲になるものだと かれています）

そしてどうなったかというと、私は大 有名になったのです。10代にして、私の名前や写真はメディアの至るところで 受けられました。それらは私を原寸大の 生活より大きくしましたが、それゆえに私はより大きく生きたくなりました。そうするための唯一の手段は（酒や 物で） うことだったのです。

病院で

何年かの金 的な成功と　な暮らしの 、私は 核にかかり、入院しなければならなくなりました。その 私は考え始めたのです。何が起こったのだろう? 私はただの肉体で、人生の目 はただこの肉体を 足させるだけなのか? 私はこの苦 が、目を ますために神から与えられたチャンスであると づきました なぜ私はここにいるのか? なぜベッドの上なのか? そして、その答えを探し始めました。その 私は、、 方の神秘主 に大　味がありました。私は本を み始め、まずしについて意 し始め、そして死 も魂は生き けるのだと考えるようになりました。私は、私が天国への道と高い 成感へと み出したのを感じました。私は瞑想し始め、菜食主 者にまでなりました。私は“平和と花の力”を信じていましたが、それは当 の大きな流行でした。しかし私が信じていた何かは、 に肉体のことだけではありませんでした。私は病院にいる 、このことに づいたのです。

ある日 いている 、雨に降られました。私は雨宿りをするために走り始め、 が付きました。“待てよ。私の体は濡れている、私の体が私に濡れていると言っているのだ。”このことは私に、体はロバのようなものであり、どこへ行かなければならないか　されていなければならないのだ、いう について考えさせました。そうでなければ、ロバはどこでも好きな所へあなたを れて行ってしまうでしょう。

そして私は神からの授かりものである意思、神のご意思に うという意志があることに付きました。私は自分が学んでいた 洋の宗教の新しい述 を学ぶことに大 魅力を感じていました。その までには私はキリスト教には き きしていました。私はまた音 を作り始め、今回はそこに自分の思いを投影し始めました。私は自分の歌のある歌 を今も えています。それはこんなものでした: “知っていればなぁ、何が天国を作り、何が地 を作ったのかを。他の人たちが大きなホテルに到 している 、私はベッドや埃っぽい部屋

であなたのことを知るのですか? ” こうして私は、自分が道の上にいることを知ったのです。

私はまた“神を つける方法”という の曲も きました。私は音 界で更に有名になりました。私はお金持ちになりましたが、有名になると同 に真 に真 を探していたので大 しいでした。そして私は 教は素晴らしいものでかつ高 なものであるという段 に来ていましたが、まだこの世界を去る は出来ていませんでした。私は世俗と余りに密になり ぎていたので、僧となって社会から自分を孤立させる用意が出来ていなかったのです。

私は禅や 、数秘 、タロットカ ドや占星 などを しました。また に立ち返ってもみましたが、何も つけられませんでした。その 、私はイスラ ムについては何も知りませんでしたが、私が奇 と なすある事件が起きたのでした。ある 私の兄弟がエルサレムのモスクを したのですが、それはその生命感で彼に大きな感慨を抱かせた一方、（空の教会やシナゴ クの空虚さとは って）平 な と静けさで たされていたのでした。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/87

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。